

## 上海手話におけるイントネーション句の分節

ジュー・シャオ

(中国・復旦大学)

イントネーション句は、しばしば「イントネーションの切れ目」と呼ばれる、句やその他の構成要素を区切るはっきりと知覚可能な切れ目によって示される単位である (Nespor & Vogel 1986)。この発表では、上体の傾け・静止・固定や頷き、瞬き、凝視などのような上海手話におけるイントネーション句の分節標識を見出すことを試みる。子供時代に聴力を失った4名のろう者の会話を収集し ELAN を用いた分析を行うことにより、2つの隣接するイントネーション句の特徴とその統語的な構成素の分析を試みた。確実に標識として機能しているのは、手の保持や振幅、往復運動、揺らぎ、瞬きやその他の顔の表情の変化であった。それらは常にイントネーション句の切れ目と同形となるわけではなかったが、それらのいくつかに現れる。イントネーション句はしばしば話題構文や同格句や等位句や挿入句などである。

キーワード：上海手話、イントネーション句、分節標識